

会報

NPO防災千葉

Vol. 45

令和7年3月発行

特定非営利活動法人 防災千葉
千葉市中央区本町 1-6-24 (渡辺コーポ 102号)
E-mail bosai@bosai-tiba.jp
Homepage <http://www.bosai-tiba.jp>
Fax 043-301-3820

■<理事長あいさつ>

令和7年も3月を迎え、暖かな日差しに春の訪れを感じられる候になりました。NPO防災千葉会報 VOL. 45（新春号）の発刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年と同様「過去最も暑い夏」となり、厳しい暑さが長期間続きました。一昨年の7月の世界平均気温が観測史上最高記録を更新する見込みとなったことを受け、『地球温暖化の時代は終わり、私たちは地球沸騰化の時代に突入した』とアントニオ・グテレス国連事務総長が表明しました。それから1年余り、地球の平均気温は月ごとに更新を続け、2024年は少なくとも12万年以上の歴史上最も暑い年となったそうです。我が国においても、昨年の平均気温は過去126年の記録の中で最も高くなり、気象庁は「異常な高温だった」と発表しています。“地球沸騰化”による異常気象は世界各地で高温、大雨、洪水、干ばつなど甚大な被害を引き起こしています。

日本では、昨年元日の大地震から懸命な復旧・復興に取り組んでいた能登半島を9月21日に集中豪雨が襲いました。輪島市での48時間雨量は500ミリにも達し、またしても多くの尊い命が失われました。時間の差こそあれ地震と豪雨の二重被災の様相は、世界有数の地震大国である我が国にとって、このような複合災害は「想定事象」として備えていくことも極めて大切なことではないかと実感せざるにはいられません。

本年1月22日に開催しました「令和6年度防災関係建設技術研修会」では、「能登半島地震の教訓、どう生かすか」をテーマとして、2題のご講演をいただきました。研修にご参加いただいた共催4団体の皆様及び講師の方には改めて感謝申し上げます。

講演の一つ目は、「地震発災直後に先遣隊として現地入りして得たこと、感じたこと」と題して、県職員として災害支援業務の調整や避難所の運営支援、インフラ、ライフライン対策、医療・福祉など各分野での支援活動について、被災地での体験談を含め貴重なお話しを伺いました。二つ目は、本県も半島であるが故、特に災害時の孤立集落対策として重要な施策である道路啓開について、内陸部を含む県全域を対象として今般策定された「千葉県道路啓開計画」について講演いただきました。まさに時宜を得た二点の演題について、皆さんと一緒に共有し、また学ぶことができたのではないかと思っております。

本年もNPO防災千葉は、本県の防災行政と連携・協働して各種事業に取り組んでいく所存であります。引き続き会員の皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

NPO防災千葉 理事長 増岡 洋一



NPO会員作品

■<防災関係建設技術研修会について>

令和7年1月22日に「プラザ菜の花」において「令和6年度防災関係建設技術研修会」を開催しました。この研修会は、千葉県道路協会、千葉県河川協会、全国治水砂防協会千葉支部との共催によるもので、NPO防災千葉からの出席者35名を含め、総勢91名の出席がありました。

開催にあたり4団体を代表して、当NPO理事長の増岡から開会挨拶があり、また、県土整備部災害・建設業担当部長の菰田直典様から来賓挨拶がありました。



増岡理事長

菰田災害・建設業担当部長

講演は、「能登半島地震、先遣隊として現地入りして得たこと、感じたこと」と題して、前防災危機管理部次長で農林水産部生産流通戦略担当部長の座間勝美様から講演をいただきましたが、県内で発生した鳥インフルエンザの対応で、急遽出席いただけなくなつたため、防災危機管理部消防課長の高岡恭子様が代理として出席され、当時危機管理政策課の復旧復興・被災地支援室長として、ご自身も被災地支援に2度行かれた経験をもとに講演をいただきました。

内容は、

- ・先遣隊（調整チーム）の活動
- ・避難所運営業務支援
- ・住家被害調査業務支援
- ・救助部隊による活動
- ・保健・医療・福祉関係
- ・応急給水活動及び水道施設応急復旧活動
- ・関係団体との連絡調整



高岡消防課長



講習会場

などについて、1月4日15時に千葉県が珠洲市の対口支援団体（被災自治体とのペアリング）に決定されてから、座間次長を含む3名が先遣隊として、ナビが効かない道路を、瓦礫をすり抜けながら、手探りで珠洲市役所を目指し、車中泊をしながら、災害対応業務の支援や調整などを行う、緊迫した状況が生々しく伝えられました。また高岡課長ご自身が現地活動で苦労なされた貴重な体験談を交え、特に発災直後で、自衛隊の炊き出しが始まるまでの数日間は、自助共助で切り抜けるため、3日から1週間程度のローリングストックを日頃から準備することの重要性や、家屋解体や瓦礫撤去において、プロボノ（建設業などプロのボランティア）の有用性を実感したことなどを話されました。



調整チームの打ち合わせ



避難所運営業務支援



住家被害調査業務支援

次に、「千葉県道路啓開計画」と題して、県土整備部道路環境課長の花岡信明様から講演をいただきました。

内容は、

- ・道路啓開計画の位置付け
- ・千葉県の防災体系
- ・千葉県版「くしの歯」作戦
- ・千葉県道路啓開計画



花岡道路環境課長

について、千葉県では東日本大震災の被害を受け、平成 27 年 11 月に千葉県版「くしの歯」作戦を策定していましたが、「想定災害が津波のみ、被災地域が沿岸部のみ」「啓開の手順や啓開に必要な人員・資機材が未検討」といった課題があり、能登半島地震では、土砂災害による道路閉塞や水道等のライフラインの途絶が発生したことを踏まえ、地震による建物の倒壊などによる道路閉塞も想定し、内陸部を含む県全域を対象とする新たな道路啓開計画を令和 6 年 9 月 10 日に策定したことが報告されました。

4 千葉県道路啓開計画（概要）

- 東日本大震災の被害を受け、津波災害に対応した千葉県版「くしの歯作戦」を策定公表済（平成 27 年 11 月）
- 能登半島地震では、土砂災害による道路閉塞や水道等のライフラインの途絶が発生
- 地震による建物の倒壊などによる道路閉塞も想定し、内陸部を含む県全域を対象とする道路啓開計画を新たに策定



追加検討

千葉県道路啓開計画
(令和 6 年 9 月 10 日)

【主なポイント】

- ① 地震被想定
・相模トラフ地震（大正関東地震）
・首都直下地震（東京湾北部地震、成田空港直下地震）
・津波（元禄地震）を想定
- ② 被災地への啓開候補路線を防災拠点を連絡するように選定
- ③ 啓開候補路線を電気通信、水道等のライフライン関係者に共有
- ④ 啓開候補路線毎に被災量を想定し、啓開に必要な人員、資機材を考慮した上で啓開担当会社を選定

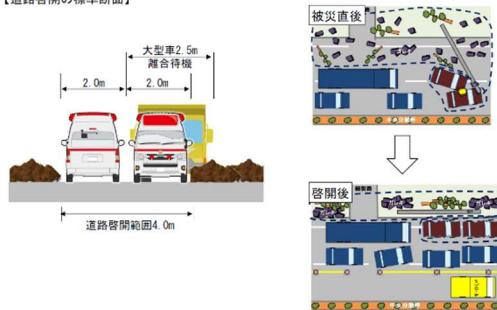
4 千葉県道路啓開計画（道路啓開幅）

- 緊急車両等の通行を考慮し、啓開幅は 4 m と設定

【道路啓開の標準断面】



【啓開作業イメージ】



■ <土木遺産調査伝承事業>

土木遺産調査伝承事業は、かつて整備された様々な土木遺産を訪ね、当時の時代背景や建設技術、施設が果たした役割を見学し、土木施設整備を担う技術者に伝承することで、今後の業務の参考にしていただこうと、千葉県建設技術協会との共催で令和 4 年度から実施しております。

令和 5 年度は、災害の影響により中止となっていましたが、今回は穏やかな晴天のもと、令和 6 年 10 月 26 日（土）、安房地域の土木遺産等を見学しました。

当日は、菰田千葉県建設技術協会会长をはじめ四童子県土整備部長、澤都市整備局長ら多くの方々にもお越しいただき、参加者数は、事務局と併せて 46 名となりました。

① 白浜めがね橋

1888（明治 21）年、地元の人々の寄付を原資とし、大型建設機械も無い時代に、地元の石工が試行錯誤を繰りながら建設したと言われている橋長 28m の石積み 3 連アーチ橋です。材料も、一部を除き、周辺で産出された石材が使用されています。



② 野島埼灯台

野島埼灯台は、フランス人技術者ベルニーの指導により建設され、1870(明治2)年、西洋式灯台としては、日本で2番目に早く点灯されました。

1923(大正12)年9月1日に発生した関東大地震により、野島埼灯台周辺は約1mも隆起、明治時代に建設された灯台は倒壊し、現在の建物は2年後に再建されました。



③ 海底地すべり堆積層

今から約2百万年前、南房総に発生した巨大地震により生じた海底地すべりの痕跡を示す乱堆積層です。2007(平成19)年、農道整備工事の施工中に偶然発見されました。学術的にも非常に価値が高いことから、見学のための説明看板や駐車スペースが設置されています。



■<震災訓練への参加>

例年実施されている千葉県県土整備部震災対策訓練に、各土木事務所管内で当NPO会員が参加しています。今年度は令和6年11月13日に当NPOから53名が参加し、各事務所管内の管理施設(河川、道路、橋梁、公園等)のパトロール結果について、携帯メール等で報告する情報伝達訓練を行いました。



河川点検状況



橋梁点検状況

■<あるくパトロールへの参加>

「道路ふれあい月間」の一環として、毎年土木事務所が行っている「あるくパトロール」に、令和6年度は15土木事務所管内で参加しました。

NPO防災千葉からの参加者は、延39名でした。

近年の実施状況（参加延人員）

- 令和2年・・40名 (13土木事務所)
- 令和3年・・39名 (13土木事務所)
- 令和4年・・38名 (13土木事務所)
- 令和5年・・34名 (13土木事務所)